

平成 21 年度

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473600557	事業の開始年月日	H13年10月1日	
		指定年月日		
法人名	社会福祉法人誠幸会泉の郷			
事業所名	グループホーム泉の郷			
所在地	( 245-0018 ) 神奈川県横浜市泉区上飯田町1221			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	27名	
		ユニット数	3ユニット	
自己評価作成日	H22 2月11日	評価結果 市町村受理日	平成22年5月31日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の人格、尊厳を守り入居者主体でゆとりのある生活を守り明るく、楽しい環境を確保する。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2F		
訪問調査日	平成22年4月1日	評価機関 評価決定日	平成22年4月30日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴  
 ①この泉の郷は横浜市の北部、いずみ中央駅から歩いて15～6分、徐々に新興住宅地として開発が進んでいる所にある。経営母体は社会福祉法人 誠幸会で、社員が登録を含めると500名余、各種福祉施設(特養、ケアハウス、デイサービス等28事業)のネットワークを持つ大きなグループであり、泉の郷は平成13年10月、グループホームでは一番最初に設立された。本部のある特養泉の郷、ケアハウス・フォンス、及びグループホーム泉の郷上飯田は至近距離にあり、本部に居宅介護、訪問介護、デイサービス等が併設されており、利用しながら自然な形での入居も可能である。グループ内のPCネットワーク、研修体制等について共通に取り組める強みをもっている。PCネットワークでは、共通のソフトを活用し情報の一体化が図られており、情報の守秘性の為、他施設の情報は見られないが、本部では双方向で伝達を可能とし、本部からの情報をパスワードを持ち活用している。職員の研修については、本部として研修計画を持っている。  
 ②地域との関係では、災害時の対応、協力体制について、運営推進会議のテーマとして、重度化の問題も含めてご相談、ご協力をお願いして行く。中学生のふれあい体験学習では、地域の保健婦さんと一緒に訪問がある。運営推進会議の席で、自治会副会長さんから「グループホームをもっと知ってもらいたい」とのお話も頂き、啓発に取り組んでいる。  
 ③昨年より管理者が変わり、新管理者は明るいホームを目指しており、周囲の職員もバックアップする気持ちがあり全体として明るくまとまったホームの雰囲気があり、期待している。誠幸会全体は勿論、グループホーム泉の郷としても職員の質の向上に取り組んでおり、特に重度化が進む中で、介護職に於いても医学知識の向上が不可欠であり、本部が中心となって年8回の医務研修を実施した。更に、この研修内容に沿ってホーム内でOJTで研修をフォローし研鑽している。

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム泉の郷
ユニット名	のぞみ

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
	○	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
	○	3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の介護に対する方向性は、理念が根本になっており、取り組んでいる。	社会福祉法人 誠幸会の理念、方針があり、それに沿ってホームの理念が作られている。この理念を基に誠幸会の年度方針が示され、職員全体で取り組んでいる。日々の介護に対する方向性は、理念が根本になっており、充分理解して介護に取り組んでいる。地域との密着は、誠幸会設立以来の基本的姿勢であり日々取り組んでいる。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入している。町内子供御神輿があつたり、中学生のふれあい体験を目的とした中学生の訪問があり、地域との交流に勤めている。	地域の一員として町内会に加入し、第2、第4金曜日の脳いきいき体操に参加したり、町内子供御神輿があつたり、中学生のふれあい体験を目的とした中学生の訪問があり、地域との交流に努めている。本部のある特養泉の郷で行われる納涼祭やお餅つきはグループホームも含めた行事であり、ご近所の方もお招きして盛大に実施している。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、介護教室を開催していないが、グループホーム入居を考えている人、ご家族、ホーム見学希望者を積極的に受け入れ、グループホームを知って貰う様に努めている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上飯田地域エリアとして2回実施している。今年度は、「災害時、どの様な対応をするか」等話し合いを重ね、意見を参考にし、防災訓練の実施に取り組んでいる。	運営推進会議は、上飯田地域エリアとして泉の郷、泉の郷上飯田、小さな手（系列ではない訪問介護事業所）の3グループホーム合同で開催している。今年度は泉区の全体会議を1回、事業所の会議を2回実施している。今年度は、「災害時、どの様な対応をするか」等の話し合いを重ね、意見を参考にし、防災訓練の実施に取り組んでいる。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは直接関わっていないが、上飯田地域保健福祉計画に基づいて自治会、社協、連絡会、行政、ケアプラザが連携している。その活動の一環として中学生のふれあい体験がある。	市町村とは、泉区の運営推進会議全体会議で関わりがあり、区の上飯田地域保健福祉計画に基づいて自治会、社協、連絡会、行政、ケアプラザが連携している。その活動の一環として中学生のふれあい体験の受入れがある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束は絶対しないというスローガンのもと日々介護をしている。日中、玄関、門扉の施錠はしていない。夜間は、防犯の為、施錠している。	法人全体で身体拘束は絶対しないというスローガンのもと、日々介護をしている。日中、玄関、門扉の施錠はしていない。夜間は、防犯の為、施錠している。泉区のはいかいネットの活用もしている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で身体拘束は絶対しないというスローガンのもと日々介護をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者で財産管理が必要な方及び入居前にマルチ商法による被害にあった方については、成年後見人制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約締結にむけては契約書条項に基き利用者及び家族の意向や不安を聞いて、十分な説明をする。今後の生活についても利用者及び家族と話し合い理解、納得頂いた上で決定する。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が意見不満、苦情を管理者、職員に表出できる様に配慮している。入居者の意見、不満等があったら聞いて改善、実現出来る所があったら実行するように努めていく。	家族会があり、年1回お集まり頂き、色々なご意見や指摘を頂き、介護に反映するようにしている。入居者が意見や不満・苦情を、管理者や職員に表現できる様に配慮している。入居者のご意見や不満等があれば、聴いて改善に努め、実現出来る所があれば実行するように取り組んでいく。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自己申告書の記載、また職員が直接、管理者に相談するといった形で運営に関する意見、提案を聞く機会を設け、改善できるところから行なうようにしている。	基本的にはミーティングで自由に意見を出してもらい、意向の統一と情報の共有化を図っている。個人的には自己申告書の記載、また職員が直接、管理者に相談するといった形で運営に関する意見、提案を聞く機会を設け、改善出来ることを行なうように努めている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では各職員が向上心をもって働けるように、内部・外部研修の機会を設け、資格取得のために勉強会の企画実施も行なっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育（全職員対象、中堅管理職・リーダー対象）を企画実施している。全職員対象としては内部研修として実施し、各職員の知識、技術のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	上飯田地域包括エリアの運営推進会議に参加することで、他グループホームとの交流が図れ、状況を理解するよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込みがあった時、訪問調査の折に必ず本人と面接し、心身両面から話をよく聴き、アセスメントしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの時点から、法人の窓口が家族の要望、不安などを聴いて把握している。更に、訪問調査の折に家族の要望や不安としている情報を収集し、受け止め、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から入居申し込みがあったり、相談を受けた場合は、他のサービス利用状況や家族の介護状況をみながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者が共に家事を行ったり、レクを行ったりする中で、共に活動、会話することで喜怒哀楽を共にし入居者から学ぶことが日々沢山ある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員、家族との信頼関係ができており、細かいことでも家族に連絡したり、面会の際に会話を持つなどして、職員、家族が共に考え行動している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会の機会を大切にし、外食や季節ごとの行事に家族をお誘いし参加していただいている。また、馴染みの場所に行きたいとの訴えもできる限り実行している。	ご家族の面会の機会を大切にし、外食や季節ごとの行事にご家族をお誘いし、参加して頂いている。また、馴染みの場所に行きたいとの要望も出来る限り支援している。デイサービス等からの入所もあり、近くの方のご利用者のご友人が遊びに来られるケースもある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も混じりレクを行ったり談笑することで利用者同士のよい関係が築けるように支えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の退去後、施設からも電話をしたりと1年ほどは家族との関係を続けている。また、系列の施設に移られた利用者については行事等の機会に家族に挨拶、話をしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の思いや希望を聞くようにはしているが、現実的に困難なことが多い。ホームでできる範囲で行っていきたい。	一人ひとりの思いや希望を、日頃の介護の場面や会話の中から聴くように努めている。現実的に困難ながらも、個々の動作等から思いを汲み取り、ホームで出来る範囲で行っている。これらをモニタリング・アセスメント表に反映するようにしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを見たり、本人との会話、家族からの情により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人をよく観察し、職員全員で現状を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットの全職員が計画見直しをする入居者のアセスメントシートに記入し、計画作成担当者と居室担当者が取りまとめ、家族の意向もふまえ、話し合いながら作成している。	ユニットの全職員が、モニタリングに沿って計画見直しをする入居者のアセスメントシートに記入し、計画作成担当者と居室担当者が取りまとめ、ご家族の意向も踏まえながら、話し合って作成している。フォーマットは泉の郷独自のものであるが、グループホームごとに違いもあるので、今年度より5グループホーム集まって検討することになっている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人日々の記録を記載すると共に、気づきや工夫においてはその都度、申し送りノートに記載することで職員全員で情報を共有、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームの外食時法人の大型バスを利用したり、法人主催である納涼祭、餅つきに参加している。入居者に福祉用具を提供したり、職員スキルアップの為に内部研修がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、地域行事としての町内子供子供神輿の訪問、中学生のふれあい体験、ボランティアの訪問がある。ホーム近くの理容店を利用したり、訪問理容にも来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である湘南お茶の水クリニックを受診し、状況に応じて湘南泉病院を紹介して頂受診している。往診は、精神科、眼科、皮膚科、歯科の医師がホームに来て往診受ける。	協力医療機関である湘南お茶の水クリニック（同じ建物内にある）を受診し、状況に応じて湘南泉病院を紹介して頂き受診している。湘南お茶の水クリニックは通院対応、往診は、精神科、眼科、皮膚科、歯科の医師がホームに来て往診を受けており、適切な医療を受けられるように支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム担当看護師が本部におり、連絡すると直ぐに来てくれる。1カ月に数回巡回している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が入院した時、家族と連絡を取り合いながら医療機関と連携し早期退院に向けて三者面談を行い受け入れ態勢作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症、病気による重度化、終末期については、家族、ホーム、かかりつけ医と連携しながらホームでできる所までを見極めて介護をしている。	認知症対応、病気による重度化について、終末期については、ご家族、ホーム、かかりつけ医と連携しながらホームでできる所までを見極めて介護に取り組んでいる。医療連携をとらず、終末期は特養（グループ内にもある）や病院の対応と考えている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月内部研修（医務研修）に参加し、勉強する事で急変や事故時に職員が対応出来る様になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い職員ほぼ全員参加している。災害時には、職員緊急連絡網で連絡を取り応援要請する事になっている。町内会にも加入しており、近隣の方達にも声を掛けている。	年2回消防訓練を行い、職員ほぼ全員参加している。災害時には、職員緊急連絡網で連絡を取り、応援要請する体制になっている。町内会にも加入しており、近隣の方達にも声を掛け、協力を頂いている。本部や特養、ケアハウスがホームの近くにあり、備蓄、応援体制とも、連携して出来る強みがある。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のペースに職員が合わせ、利用者のプライバシーを損ねるような対応は行なっていない。	ご利用者のペースの考慮に努め、ご利用者のプライバシーを損ねるような対応は行なっていない。人格の尊重、プライバシー等の研修については本部及びホーム自体で実施している。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の活動、会話すべてにおいて個々の利用者に合わせ難い説明は避け、利用者の意向を大切に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	以前より重度化してきており、できる限り一人一人のペース、生活を大切にし、安全にそして希望に沿った支援を行なえるように努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択は利用者の希望に沿って行なっている。また希望に合わせて近くの理容室、美容院に行っている。行けない利用者は、出張理容を利用している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各テーブルに職員が付きサポートしている。食事の準備ができる利用者に盛り付けや野菜の皮むきをお願いしたり、職員と一緒に皿洗いをしてくださる利用者もいる。	独自のメニューで、ご利用者の希望を聞き、ご利用者と一緒買い物に行き提供している。メニューは3ユニットとも同じであり、近所の八百屋さん、牛乳やさんには配達をお願いし、ご近所付き合いを大切にしている。各テーブルに職員が付きサポートしている。食事の準備ができるご利用者に盛り付け、野菜の皮むき等、職員と一緒に皿洗いなどもお願いしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は毎食一人一人記録に残している。また水分摂取においても一人一人把握し、摂取量が少ない方は記録し一日トータル量を確保するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人のコップ、歯ブラシを用意し、毎食後声掛けや職員介助で口腔ケアを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意を感じなくなった方、あるいは見当識障害のある入居者には、トイレ誘導を行なっている。また声掛けでわかる方にはご本人と時間を決めて声掛け誘導を行なっている。	尿意を感じなくなった方、または見当識障害のある入居者には、トイレ誘導を行なっている。また声掛けでわかる方にはご本人と時間を決めて声掛け誘導を行なっている。自立の多いユニットではオムツにせず、リハバン+誘導の対応を行う等、出来る限りトイレでの排泄を促がすように支援している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が続く方には牛乳やヨーグルトを提供したり、野菜や水分量を増やしたり、散歩など適度な運動を進めるなどの工夫をしている。またメント湿布の施行も行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴をしたいと訴えられる利用者がほとんどいない為基本的に一日おきに入浴をしていただいているが、無理強いはずでできる限り本人のよい日、時間に入浴していただいている。	入浴をしたいと訴えられるご利用者がほとんどいない為、基本的に一日おきに入浴をして頂いているが、無理強いはずで、できる限り本人の入りたい日や好きな時間に入浴して頂き、柔軟性のある体制である。1日4人位いのペースである。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、ペースを大切に、落ち着ける場所で休息がとれるようにしている。不安感が強い時は側に付き添うなどマンツーマンの対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療情報ノート、内服薬情報のファイルを作成し、利用者一人一人の薬の情報がすぐわかるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中で出来ることはご自分で行なうに、声掛けで家事仕事等も手伝っていただいている。また散歩の好きな方と散歩を甘い物が好きな方にお菓子を提供するなど個別にも行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	散歩の時間を設け、気分転換を図りたい方には、声掛けをし外に出る機会を設けるようにしている。また散歩の時間以外にも希望を聞きながら外に出る機会を増やすようにしている。	散歩の時間を設け、気分転換を図りたい方には、声掛けをし外に出る機会の支援を行なっている。また、散歩の時間以外にも希望を聞きながら、外に出る機会を増やすように配慮している。ご利用者の奥様が特養に入居している方は散歩を兼ねてお見舞いに行かれています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日々利用者がお金を管理することは困難であるが、ご本人の希望に応じて職員や家族と共に買い物していただくように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に電話を設置している方もいる。また、希望に応じてホームの電話を使用していただけようようにしており、職員が随時対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、リビングにはソファがあり、絵画やカレンダー、人形、季節のお花を飾るなどしてつるぐことのできる空間作りをしている。	廊下、リビングにはソファが配置され、絵画やカレンダー、人形、季節のお花を飾る工夫をし、ご利用者が寛げる空間作りに配慮している。インテリアは、各ユニット毎に職員の感性に任せられているが、基本は「安全第一・すっきり・季節感」に置いている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには利用者一人一人の決まった席がある一方で、ソファなどを配置し、気の合った方同士で座ってお話ができるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室にはご本人が使用してきた物や、好きな物を置いていただくようにしている。状況に応じて危険や混乱が伴う場合は、家族と相談の上持ち帰っていただく等配慮している。	基本的に居室にはご本人が使用してきた物や、好きな物を置いて頂くように配慮している。ご利用者に危険や混乱が伴う場合は、ご家族と相談の上、持ち帰って頂く等、状況に応じて配慮している。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに「トイレ」と大きく表示したり、各居室や席に名前を表示したりとわかりやすくしている。また、混乱がみられる場合はさりげなく介助ができるようにしている。		

事業所名	グループホーム泉の郷
ユニット名	ふれあい

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
	○	4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
	○	3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
	○	2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の介護に対する方向性は、理念が根本になっており、取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入している。町内子供御神輿があつたり、中学生のふれあい体験を目的とした中学生の訪問があり、地域との交流に勤めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、介護教室を開催していないが、グループホーム入居を考えている人、ご家族、ホーム見学希望者を積極的に受け入れ、グループホームを知って貰う様に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上飯田地域エリアとして2回実施している。今年度は、「災害時、どの様な対応をするか」等話し合いを重ね、意見を参考にし、防災訓練の実施に取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは直接関わっていないが、上飯田地域保健福祉計画に基づいて自治会、社協、連絡会、行政、ケアプラザが連携している。その活動の一環として中学生のふれあい体験がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束は絶対しないというスローガンのもと日々介護をしている。日中、玄関、門扉の施錠はしていない。夜間は、防犯の為、施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で身体拘束は絶対しないというスローガンのもと日々介護をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者で財産管理が必要な方及び入居前にマルチ商法による被害にあった方については、成年後見人制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約締結にむけては契約書条項に基き利用者及び家族の意向や不安を聞いて、十分な説明をする。今後の生活についても利用者及び家族と話し合い理解、納得頂いた上で決定する。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が意見不満、苦情を管理者、職員に表出できる様に配慮している。入居者の意見、不満等があったら聞いて改善、実現出来る所があったら実行するように努めていく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議、自己申告書等で運営に関する意見・提案を聞く機会を設けて改善できることからしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各位が希望する職場でモチベーションを維持しながら働けるように、勤務状況の把握・資格取得の機会提供を図っている。資格取得に伴い手当での支給も行なわれている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員対象で、法人内にて内部研修（医務研修）を行ない知識・技術習得を目指し実施されている。その他でも内外の研修などにも参加する機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	上飯田地域包括エリアの運営推進会議に参加することで、他グループホームとの交流が図れた。又、市グループホーム協議会の現場研修などを通し、職員同士が相互に学びあう機会がある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みがあった時、訪問調査の折に必ず本人と面接し、心身両面から話しをよく聴き、アセスメントをとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時点から、法人の窓口が家族の要望・不安などを聴いて把握している。更に、訪問調査の折に家族が要望・不安としている情報を収集し、受け止め、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から入居申し込みがあったり相談を受けた場合は、他のサービス利用状況や家族の介護力状況を見ながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活暦や特技を生かし、台所のお手伝いや洗濯物干し・掃除・買い物の同行など職員と共に行動することによって、お互いに支え合う関係を築きあげている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時には職員側からご家族に話しかけるよう努め、日々様子を伝えている。なにかあればすぐに電話などをし相談するよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去に住んでいた場所が気になり見に行きたいという利用者さんに対し、個別外出の機会を作ったりと支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	みんなで出来るレクリエーションを行ない、交流を図っている。又、天気の良い日などは散歩を行ない、一体感を持っていただけるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時以降、本人とは連絡を取り合っていない場合が多い。新しい生活に対する適応のことを考えると判断しがたいが、ご家族とは経過のフォローや相談の支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り本人の希望や意向に沿うよう検討している。又、表現の困難な方に対しても何がその人にとって良いのかを本人主体で考えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメント表を作成し、アセスメントに基づいたケアプランを作成・情報の共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にケアプランを作成・見直しを行なっている。職員間でも、連絡ノートや日々のショートカンファレンスの中で情報の交換を図り、共有するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からは日頃の生活の中から情報を集め、家族からは面会や外食日などを利用し要望や意見を取り入れたりしている。職員間では、連絡ノートを活用し情報を集め作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケース記録を個別に記録し保存している。又、生活リズム表・バイタル表なども記録・保存して医療受診・介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームの外食時法人の大型バスを利用したり、法人主催である納涼祭、餅つきに参加している。入居者に福祉用具を提供したり、職員スキルアップの為に内部研修がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、地域行事としての町内子供子供神輿の訪問、中学生のふれあい体験、ボランティアの訪問がある。ホーム近くの理容店を利用したり、訪問理容にも来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である湘南お茶の水クリニックを受診し、状況に応じて湘南泉病院を紹介して頂受診している。往診は、精神科、眼科、皮膚科、歯科の医師がホームに来て往診受ける。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム担当看護師が本部におり、連絡すると直ぐに来てくれる。1カ月に数回巡回している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が入院した時、家族と連絡を取り合いながら医療機関と連携し早期退院に向けて三者面談を行い受け入れ態勢作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症、病気による重度化、終末期については、家族、ホーム、かかりつけ医と連携しながらホームでできる所までを見極めて介護をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月内部研修（医務研修）に参加し、勉強する事で急変や事故時に職員が対応出来る様になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防訓練を行い職員ほぼ全員参加している。災害時には、職員緊急連絡網で連絡を取り応援要請する事になっている。町内会加入しており、近隣の方にも声をかけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の誇りやプライバシー・人生観を損ねないような言葉かけを日々心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に混乱を招くようなことがないよう理解度に応じた対応や言葉かけを行ない思いや希望を理解するよう努めている。そして、自己決定の実現が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースを尊重し、拒否のあるときには無理をさせないよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛の長い方もおり、結ったりする支援を行なっている。又、洋服などは本人の好みに合わせて着ていただけるような声掛けや見守りを行なっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人好みを把握し、調理や盛り付けを工夫している。又、本人の生活暦ややりたい事を見極めながら、準備や片付けを手伝っていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分に関しては、中々摂っていただけない方もいるが工夫しながら必要量を摂取していただけている。食事の量に関しては、その方の運動量に合わせて量を盛り付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを遂行し、個別で介助を行なっている。又、入れ歯の清潔保持も職員が行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別の排泄パターンを知る為に、排泄チェックを行なっている。それに合わせてトイレ誘導を行ない失敗しないよう努めている。リハビリパンツ・パッドを使用しているもトイレでの排泄を目標にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には本部看護師の指導のもと、セブ茶や朝食後のミタ湿布・腹部、マッサージ対応を行なっている。又、ラジオ体操や散歩・外気浴などで生活リズムを作るよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前・午後を問わず、毎日入浴できるようにしており、本人の希望に合わせて入浴していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室やソファが休息の場になっている。又、昼寝時間の調整や散歩・身体を動かすレクリエーションを取り入れ安眠策を考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬表をファイルしており、全職員が確認できるようにしている。症状の変化に対しては医療機関と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦に沿って、家事手伝いなどの役割を持っていただき、毎日夕方にレクリエーション（カルタ・トランプ）等を取り入れ支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	希望に応じ出来る限り外に出たり散歩をしているが、業務の流れの中で常にとは言い切れないところがある。又、以前住んでいた土地まで訪問ヘルパーを利用して外出したりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意向により、お小遣い程度のお金を持っているかたがおり、紛失などでのトラブルにならないよう配慮は行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、事務所の電話を自由に使用することが出来る。又、年賀状や暑中見舞いも出せるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夕刻の西日が直接入ってきてしまうものの、リビングには明るい日差しが入る。照明も明るすぎず暗すぎず、その場所に合わせた色合い・強さになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見守りが必要な方が増えた為、個人で過ごすスペースが減っているものの、ご自分の時間を持ちたい方は居室に戻られて過ごされるなど、利用者自身が工夫しながら過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を持って来ていただき、利用している。又、新しく購入していただくものにはご家族に相談し、ご本人にあった物を置くよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすい表示（トイレ・居室・浴室）を行っており、誤認しないよう工夫している。また、過去、手すりなどの増設工事も行なわれており、少しずつ安全確保出来るようになった。		

事業所名	グループホーム泉の郷
ユニット名	ほほえみ

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3, 利用者の1/3くらいの
		4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまにある
		4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3, 家族の1/3くらいと
		4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
	○	2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
	○	3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の介護に対する方向性は、理念が根本になっており、取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入している。町内子供御神輿があつたり、中学生のふれあい体験を目的とした中学生の訪問があり、地域との交流に勤めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は、介護教室を開催していないが、グループホーム入居を考えている人、ご家族、ホーム見学希望者を積極的に受け入れ、グループホームを知って貰う様に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上飯田地域エリアとして2回実施している。今年度は、「災害時、どの様な対応をするか」等話し合いを重ね、意見を参考にし、防災訓練の実施に取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村とは直接関わっていないが、上飯田地域保健福祉計画に基づいて自治会、社協、連絡会、行政、ケアプラザが連携している。その活動の一環として中学生のふれあい体験がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束は絶対しないというスローガンのもと日々介護をしている。日中、玄関、門扉の施錠はしていない。夜間は、防犯の為、施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で身体拘束は絶対しないというスローガンのもと日々介護をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者で財産管理が必要な方及び入居前にマルチ商法による被害にあった方については、成年後見人制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約締結にむけては契約書条項に基き利用者及び家族の意向や不安を聞いて、十分な説明をする。今後の生活についても利用者及び家族と話し合い理解、納得頂いた上で決定する。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が意見不満、苦情を管理者、職員に表出できる様に配慮している。入居者の意見、不満等があったら聞いて改善、実現出来る所があったら実行するように努めていく。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	自己申告書の記載、また職員が直接、管理者に相談するといった形で運営に関する意見、提案を聞く機会を設け、改善出来るところから行なうようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では各職員が向上心をもって働けるように、内部・外部研修の機会を設け、資格取得のために勉強会の企画実施も行なっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育（全職員対象、中堅管理職、リーダー対象）を企画実施している。全職員対象としては内部研修として実施し、各職員の知識、技術のレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	上飯田地域包括エリアの運営推進会議に参加することで、他グループホームとの交流が図れ、状況を理解するよう努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みがあった時訪問調査の折に必ず本人と面接し、心身両面から話しを良く聴きアセスメントしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時点から、法人の窓口が家族の要望、不安等聞いて把握している。更に訪問調査の折に家族が要望、不安としている情報を収集し、受け止め対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から入居申し込みがあったり、相談を受けた場合は、他のサービス利用状況を見ながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も共同生活者の一員として入居されている方達と時間を共有し、共に生活を楽しむように取り組んでいる。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際、ご家族とも馴染の関係作りを心がけている。またご本人を中心にご家族、職員の三者でケアに取り組める様な関係作りを目指し取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から入居申し込みがあった時は、なるべく本人がホームを見学する様勧めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良くも悪くもお互いに関わり合う事で現在の生活があると考えている。ご利用者同士の関係を見守り、また積極的に関係しあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	基本的にこちらから連絡をする事はしていない。必要性のある方や希望されるご家族がいらっしゃる場合には継続して関わりを持っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご希望の聞ける方には希望を把握し実践出来るよう努めている。ご自分の思いを言えない方には基本的な生活をしっかり支えながらご本人の楽しみの部分を作れる様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者基本台帳にある生活歴やご家族からの情報により把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一つ一つの動きや発言等にも注意し観察し状況把握に努めている。その中で出来る部分は活かし出来ない部分は上手く支援出来る様にケアプランに繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	申し送りやミニミーティングの中で課題やケアについて話合っている。ご家族の思いを聴く事が少ないので、余りケアプランに反映されていない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化や新たな周辺症状の現れ、ご本人にとっての困り事や生活に生かせる力の発見が合った際はその都度ケアプランの追加作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホームの外食時法人の大型バスを利用したり、法人主催である納涼祭、餅つきに参加している。入居者に福祉用具を提供したり、職員スキルアップの為内部研修がある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、地域行事としての町内子供子供神輿の訪問、中学生のふれあい体験、ボランティアの訪問がある。ホーム近くの理容店を利用したり、訪問理容にも来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関である湘南お茶の水クリニックを受診し、状況に応じて湘南泉病院を紹介して頂受診している。往診は、精神科、眼科、皮膚科、歯科の医師がホームに来て往診受ける。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム担当看護師が本部におり、連絡すると直ぐに来てくれる。1カ月に数回巡回している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の方が入院した時、家族と連絡を取り合いながら医療機関と連携し早期退院に向けて三者面談を行い受け入れ態勢作りをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症、病気による重度化、終末期については、家族、ホーム、かかりつけ医と連携しながらホームでできる所までを見極めて介護をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月内部研修（医務研修）に参加し、勉強する事で急変や事故時、職員が対応出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防避難訓練を行い職員ほぼ全員参加している。災害時には、職員緊急連絡網で連絡を取り応援要請する事になっている。町内会加入しており、近隣の方にも声を掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴染みの関係作りの中で慣れ過ぎてしまっている言葉からもある様に思われるが、職員教育により、日々改善に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や意思表示のうまく出来ない方に対してはなるべく声掛けの回数を多くし、ニーズを探る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その様にしていきたいと思っており、部分的には出来ている。しかし職員都合で制限してしまっている事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容美容店は近隣に2件あり、希望によりどちらかに行っている。外出時等、職員もお手伝いしおしゃれをし外出されている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付け等も一緒に行っている。また、食事中、食後も職員と利用者が会話をし、楽しく召し上がって頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養バランスには気を使い、本人の嗜好、状態に応じて摂取出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来ない方は介助でご自分で出来る方は、声掛けし毎食後口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ誘導、声掛けを頻繁に行い、失敗される前にトイレで排泄出来る様取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防対策としてご家族了解のもとセンナ茶、朝夕の牛乳、メント湿布を使用し自然排便出来る様に取り組んでいる。また日中散歩へ出掛ける様に働き掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午前、午後を問わず毎日入浴出来る様にしており、出来る限り本人の希望に合わせて入浴して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由にリビングや居室で過ごされるいる。居室で横になれる方や椅子に腰掛けて日向ぼっこされる方、園庭を歩かれる方など様々である。夜間は皆様自由に入床、起床されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の薬表をファイルしており、全職員が確認出来る様にしている。症状の変化に対しては、医療機関と相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦に沿って家事手伝い等の役割を持って頂いており、毎日レクリエーション（縫い物、塗り絵、歌レク）等を取り入れ支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じ出来る限り買い物に行ったり、散歩をしているが、業務の流れの中で常にとは言い切れないところがある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理されている方もおられ、紛失に注意しながら支援している。また、必要に応じてご自分で買い物にて使用されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常的に手紙を書かれ、ご家族とやり取りをされている方もおられる。また電話はご本人の要望にお任せしているが、ご家族の要望も聞き入れ、職員が間に入る様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夕刻の西日が直接入ってきてしまうものの、リビングには明るい日差しが入る。照明も明るすぎず暗すぎず、その場所に合わせた色合い・強さになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをリビングと廊下に配置。リビングソファ横には共同の書籍入れがあり、気の合った利用者同士思い思いの過ごし方をさせておられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を持って来て頂き利用されている。又、新しく購入していただく物にはご家族に相談し、ご本人にあった物を置く様配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の前等に邪魔な物を置かない様にし、洗面所等分り易いように名札を付け、間違いにくい様に配慮しています。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム泉の郷

作成日 H22年4月13日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内 容	目標達成に 要する期間
1	64	ほほえみユニットでは、週1日地域の方がボランティアで来て下さっている。他ユニットも地域の方が訪ねて来て下さるようにしたい。	地域の方が遊びに来て下さるようにしたい。	運営推進会議、町内会の集まり等で声を掛ける。	1年
2	60	近隣の散歩、買物等には出掛けているが、日々の業務もあり遠出は難しい。	利用者様が戸外の行きたい所へ出掛けられるようにしたい。	出掛ける計画を立て、外出日には職員日中3人体制を4人体制とする。	半年
3	65	運営推進会議で地域の方達と話し合いをし認知症の方に対する理解は得られているが、応援者が増えない。	地域住民や地元の関係者との繋がりを広げ応援者を増やしたい。	運営推進会議の前後にホーム内を見学していただいたり、食事を摂っていただきグループホームという生活の場を理解していただく。	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
 注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。